



大果・多収・良食味のイチゴ新品種「愛経4号」を開発

開発の背景・ニーズ

現在、早期収量を重視する産地では「章姫」、「紅ほっぺ」など他県で開発された品種が普及しています。これらの品種は、収量性に優れますが、摘果の作業量が多いことが課題です。そこで、販売単価が高い年内及び厳寒期の収量が多く、大果で食味の良い品種の開発に取り組みました。

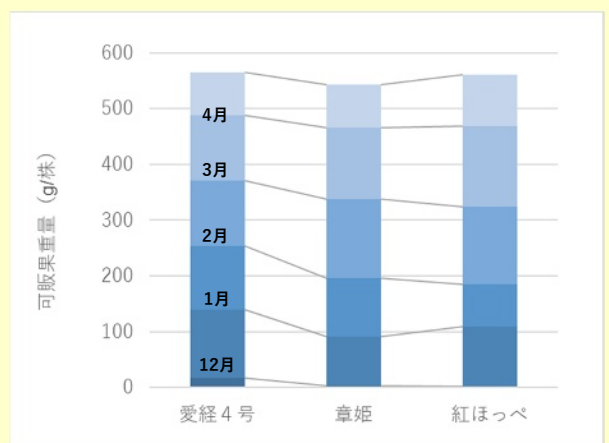
成果の内容

2015年度に新品種の選抜を開始し、2021年1月に種苗法に基づく品種登録出願を行いました。

イチゴ「愛経4号」は年内の収量が多く、4月末までの収量は「章姫」と同程度です。果実の平均一果重が21.1g/果と「章姫」15.8gより重く、4月で15g以上の果実が収穫できました。果実の糖度は収穫期間を通じて高く、果皮色は赤色で光沢が強く、果肉色は淡赤色です。



イチゴ新品種「愛経4号」の果実



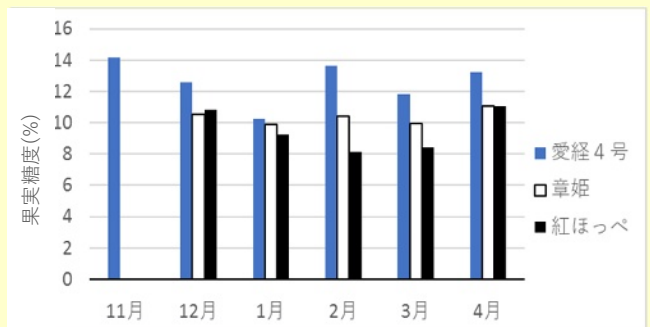
品種別可販果重量



試験圃場の様子



大果でも果形が良い



品種別果実糖度

愛知県農業への貢献

新品種は、販売単価の高い年内、厳寒期の収量性に優れます。また、平均一果重が重く、果形の揃いが良いので、収穫・出荷調製作業の省力化が期待できます。果実の糖度が11月から4月まで安定して高く、消費の嗜好性が高いと見込まれます。

普及においては、炭疽病に対して弱いので、従来品種と同様に育苗期間中からの病害虫防除の徹底が必要です。2024年度に10ha、2034年度に30haの生産を目指します。

【本品種は、愛知県経済農業協同組合連合会との共同研究で開発しました。】